

令和 5 年度 学校評価シート

別紙様式

令和 5 年度 学校評価シート		学校名： 和歌山商業高等学校		校長名： 中 村 栄 作		
目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する） ・ 健やかな心身と正しく強い意志をもった生徒 ・ 高いコミュニケーション能力と他者を尊重し協働できる力を備えた生徒 ・ 地域経済に貢献できる専門的知識と技術を身につけた生徒 ・ 希望の進路に対応できる学力と社会人としての教養を身につけた生徒		学校評価の公表方法 本校ホームページ上で公表		現状・進捗度	A	十分に達成している。 (80%以上)
					B	概ね達成している。 (60%以上)
					C	あまり十分でない。 (40%以上)
					D	不十分である。 (40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）								学校関係者評価（2月15日実施）	
番号	計画・取組				評価（2月14日現在）			<各種アンケート調査等について> ・「興味や意欲がわき、幅広い知識や背景等が学習でき、授業内容もよくわかる。」「わかりやすい、ICTを効果的に使用している。」が昨年度の調査よりも評価が高い。また、「先生の指導に熱意を感じる。」とほとんどの生徒が回答してる。 これらのことから、生徒の授業に対する評価は、満足のいくものであると考えられる。 ・一方で、「学校生活があまり満足していない」と考える生徒が、約1割存在することは課題であろう。	
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策		
1	主体的に学習に取り組む態度と知識・技能を着実に育てる。	B	主体的に学習に取り組む態度の育成を目的とした公開授業を実施し、授業改善を図る。 予習や復習の宿題を意図的に課すことによって、家庭学習の時間を確保する。	項目を生徒の主体的な取組の自己評価とし、指標をその評価結果とする。 項目を家庭学習に対する取組状況等とし、指標を家庭学習の時間とする。	A B	公開授業を実施し、授業アンケートを行った。積極的に授業に参加し、集中して学習できていると回答している生徒は95.3%に及んだ。 家庭学習を1日1時間以上する生徒の割合はR4年度より少し増加している。	今後も公開授業や授業アンケートを実施することにより、実情をつかんで、生徒の学習に対する取り組みや、意識の向上につなげていきたい。	<各種検定について> ・生徒自身のアンケート結果では、家庭学習時間が1時間未満である生徒が減っている、つまり家庭学習に取り組む生徒が増えている。しかし、検定の合格率が下がっている。 ・検定は点数で合否が分かれるが、観点別評価となり、考査等の点数に執着しない生徒が増えてきているのかも知れない。また、家庭学習に取り組む生徒が増加していることについても、観点別評価の資料となる課題（宿題）に取り組んでいるからではないか。 ・卒業後の進路も、看護医療系など商業系の検定を進路に利用しない生徒も一定数いることから、合格に執着しなくなってきた。 ・今後、検定受験は全員受験ではなく、希望者受験とすることも必要ではないか。	
2	商業高校の利点も生かしながら、生徒の希望進路の実現を図る。	B	1年次の「キャリアデザイン」の授業で進路意識を育てる。 進学・就職に関する情報提供や補習、個別指導等を実施する。 連携協定を結ぶ大学との交流を深め、進学意識を醸成させる。	①全商簿記1級、全商情報処理1級、全商英検1・2級の合格率が、本校過去5年間の合格率の平均以上であったか。 ②大学、短大等の合格率が前年よりも上がったか。 ③就職内定率が100%であったか。	B	① 全商英検2級の合格率は若干上がっているが、全商簿記1級、全商情報処理1級の合格率はここ数年のうちに低い結果となっている。 ② 大学・短期大学等の合格率は例年と大きな差はみられない。 ③ 就職内定率は100%を実現した。	キャリアデザインの授業内容については、精査が必要であると考える。 進学補習や就職や公務員対策講座は、充実させることができています。今後は、もう少し早い段階からの取り組みについて検討していきたい。また先輩から後輩へのアドバイスを伝える取り組みを行うことができた。 就職対策のICT化も進めることができた。		
3	各種特別活動を通して、他者を尊重し協働できる力を育てる。	B	学校行事を通して、生徒相互の連帯感や思いやり、自主性、自立性を養う。 部活動への積極的な参加を働きかけ、人間関係形成能力を育てる。	項目を生徒記入用の学校評価に係るアンケートの項目とし、指標をその評価結果とする。 項目を部活動の加入率とし、指標を加入率の前年度比とする。	A B	学校行事については、3年生を中心に積極的に取り組み、アンケート結果では約88%が肯定的であった。 今年度の加入率は76%で、昨年度の77%から横ばいであった。	体育祭や文化祭などの学校行事はコロナ禍前の内容に戻りつつあり、生徒の感想も好評であった。今後もこれらの行事を通して、生徒のコミュニケーション力や協力して課題を解決する力を育てる指導や支援を強化する。 部活動は任意加入であるが、部活動に魅力を感じ、積極的に加入する生徒の育成を推進する。	<特別活動等について> ・学校行事はコロナ禍以前の状況に戻りつつあり、様々な学校行事を通して、生徒が主体的に取り組む、自ら課題を解決する力を育ててあげたい。 ・クラブの加入率は横ばいとのことだが、クラブによっては全国1位ともなり、大変喜ばしい。 <学校生活全般について> ・全国的にも、制服のジェンダーレス化が進められている。本校での取組に期待したい。	
4	学校生活全般を通し、健やかな心身と正しく強い意志を育てる。	B	学校の諸活動で「時を守り 場を清め 礼を正す」ことを徹底させる。 学校運営協議会で現状に係る協議を行い、協働した指導を実施する。	①授業遅刻者数の半減 ②挨拶・身だしなみの改善 ③清掃状況の改善 ①同協議会での協議の有無 ②同協議会での提案の有無 ③同協議会との協働の有無	B B	遅刻者数は概ね減少傾向であり、身だしなみも校則が守られている。挨拶では相手への思いやりが感じ取れる。 同協議会において、新制服の検討、提案がなされ、話し合いがもたれた。	・遅刻、挨拶、身だしなみについての啓発を継続して行う。 ・新制服において、ジェンダーレス化を目指して、来年度、制服検討委員会を発足させ、本校制服のモデルチェンジを進めていく。		